

2010.2.19(金)

徳大次期病院長に苛原氏



苛原稔氏

苛原副院長は病院長への抱負として「医学研究や医療人教育拡充のため支援体制を構築するほか、県内医療機関と連携

を強め、地域への高度医療提供に積極的に取り組む」とのコメントを発表した。

苛原副院長は美馬市美馬町出身。1979年に同大医学部を卒業。同学部付属病院助手、同学部助教授を経て01年から教授。専門は生殖医学。03年から現職。県出身者が病院長になるのは、黒田泰弘氏以来10年ぶり。

徳島大学医学部と歯学部は18日、合同教授会を開き、香川征徳大病院長(65)の任期満了(2010年3月31日)に伴う次期病院長に、同大大学院産科婦人科学分野教授で同病院の苛原稔副院長(56)を選んだ。任期は4月1日から3年間。病院長専任でなく、大学院教授を兼務する。

徳大は昨年10月、専任の新病院長候補者を全国公募したが応募がなく、その後の学内募集で苛原副院長だけが応募。18日に行われた両学部教員らによる信任投票で過半数を獲得した。